

第2回環境やまがた大賞受賞

贈呈式は、平成12年12月3日にビックウイングにおいて行われた。

受賞団体の概要

地球環境保全活動分野

立川町（町長 館林茂樹）

＝ 強風を逆手にとった風力発電の推進と環境のまちづくり ＝

日本三大悪風の一つに数えられる局地風「清川だし」。

立川町では、この悪風を逆手にとり町おこしに利用しようと、昭和55年から風エネルギー実用化実験事業に取り組み、以来、順次風車を増設して20年にわたって風力発電を推進しています。

現在、合計9基の風車で年間657万kwhの発電を行い、その発電量は、町全体の消費電力の30パーセントを占めるまでになっています。

これを将来100パーセントにすることを目標として、環境にやさしい町づくりを進めています。

平成6年8月に立川町で開催された「第1回風サミット」は、その後、全国の会員市町村の当番制で継続開催されています。

地域環境保全活動分野

川西町立大塚小学校（校長 樋口康男）

＝ 県指定天然記念物チョウセンアカシジミの保護活動 ＝

平成8年10月、学校創立百周年記念事業の一環として、地元の自然の素晴らしさと生命の尊さを学ぼうと、チョウセンアカシジミの学習と保護活動を開始しました。

毎年秋に、地区内のチョウセンアカシジミの保護区で卵の数の調査を行い、生息数の変化を捉えるとともに、保護区周辺に食樹であるトネリコの木を移植して、生息域の拡大に努めています。

一昨年からは、学校の一角に観察園を設けて、通年で成長の様子を観察しています。

翅幅わずか3センチの蝶を守ろうとするこの小さな取り組みは、児童の心の中に自然や郷土に対する愛情を確実に育むとともに、保護者や一般住民をも動かして、活動は地域全体に広がっています。

（チョウセンアカシジミ）

シジミチョウ科の蝶。山形県、岩手県、新潟県の一部でしか生息が確認されていない希少種。環境庁のレッドデータブックで「絶滅の危険が増大している種」に登録。

環境技術研究開発分野

エスキー工機株式会社（代表取締役 遠藤岩雄）

＝ もみ殻を活用した生ゴミ処理装置の開発 ＝

ミキサー製造で培った技術を活かして、平成2年から生ゴミ処理装置の開発に取り組み、試行錯誤を経て、平成4年に「ゴミサー」を完成させました。

この装置は、もみ殻のコアを加えて攪拌することにより、生ゴミの分解を早めるもので、最終的には、水と二酸化炭素に完全分解して、生ゴミが消滅するものです。

平成5年に国内特許を取得したのに続き、本年は米国特許を取得しています。

県内はもとより、北海道から沖縄県まで、全ての都道府県に1,000台以上が納入されており、給食センター、病院、ホテル、老人ホームなどで、食品残渣の処理に広く活用されています。

米どころ庄内平野の一角で開発されたこの画期的な装置は、将来にわたって、全国規模で廃棄物の減量に貢献することが期待できます。